

# 株主様向け(磯子火力発電所) 施設見学会のお知らせ

今回は、世界最高水準の発電効率を誇る石炭火力発電所「磯子火力発電所」(神奈川県横浜市)の施設見学会を開催いたします。ご希望の方は同封の返信用はがきにてお申し込みください。多くの皆様のご応募をお待ち申し上げております。

行程(日帰り)	コース・実施日	予定時間	集合・解散場所
	① 2014年9月18日(木)	13:00~17:00頃 ※交通事情などにより 解散時刻が前後する場合も ございます。	JR横浜駅周辺 ※発電所への自家用車など での直接のご来場は ご遠慮ください。
	② 2014年9月19日(金)		
	③ 2014年9月25日(木)		
	④ 2014年9月26日(金)		

**見学場所** 磯子火力発電所(神奈川県横浜市)  
**参加費** 無料(ただし、集合・解散場所までの往復交通費は各自のご負担でお願いいたします)  
**募集対象** 2014年3月31日現在、当社株式を100株以上保有する方(同伴者1名可。ただし小学生以上の方に限らせていただきます)  
**募集定員** 各コースとも30名(応募者多数の場合、抽選とさせていただきます)  
**お申し込み** 同封の返信用はがきにてお申し込みください  
**お問い合わせ** 電源開発株式会社 総務部 総務・法務室 施設見学会担当 TEL: 03-3546-2211(代表)  
 (受付時間9:30~12:00、13:00~17:30 [土・日、祝祭日を除く]) E-Mail: kabushiki@jpower.co.jp  
**締め切り** 2014年7月25日(金) 消印有効 当選者のみ郵送でご連絡  
 (2014年8月下旬までに詳細なご案内をお送りいたします。落選の場合はご連絡は差し上げません)



募集要項

## 株主メモ

**事業年度** 毎年4月1日から翌年3月31日まで  
**定時株主総会** 毎年6月開催  
**基準日** 定時株主総会 毎年3月31日  
 期末配当 毎年3月31日  
 中間配当 毎年9月30日  
 その他必要があるときは、あらかじめ公告して定めた日。  
**上場金融商品取引所** 東京証券取引所市場第一部  
**証券コード** 9513  
**単元株式数** 100株  
**株主名簿管理人および特別口座の口座管理機関** 東京都千代田区丸の内一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社  
**株主名簿管理人事務取扱場所** 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部  
 [郵便物送付先] 〒168-0063 東京都杉並区和泉二丁目8番4号  
 [電話照会先] ☎0120-782-031  
 [インターネットウェブサイトURL] <http://www.smtb.jp/personal/agency/index.html>  
**公告方法** 電子公告(当社ウェブサイトに掲載 <http://www.jpower.co.jp>)。ただし、事故その他やむを得ない事由によって電子公告をすることができない場合は、日本経済新聞に掲載します。

## 株式事務について

**【株式に関する住所変更などのお届出およびご照会について】**  
 証券会社に口座を開設されている株主様は、住所変更などのお届出およびご照会は、口座のある証券会社宛にお願いいたします。証券会社に口座を開設されていない株主様は、左記の株主名簿管理人へご連絡ください。  
**【配当金払渡し期間経過後の配当金の受取方法】**  
 「配当金領収証」による配当金の郵便局またはゆうちょ銀行での払渡し期間経過後も、当社の株主名簿管理人である三井住友信託銀行の本店および国内各支店において、配当金のお受取りの手続きをとることができますので、同領収証をご持参の上お受けください。なお、ご郵送の場合は、送金方法をご指定いただき、同領収証表面受領者印章欄にご押印の上、左記の株主名簿管理人宛にご送付ください。

## 株主様アンケートのお願い

今回も株主様アンケートを実施いたしますので、引き続きご協力をお願いいたします。期限までにご回答いただいた方には、「J-POWERオリジナルカレンダー2015年版」を進呈いたします。同封の返信用はがきにご記入の上ご返送ください(締め切り: 2014年7月25日(金) 消印有効)。なお、カレンダーの発送は12月上旬を予定しております。 ※写真は2014年版のものです。



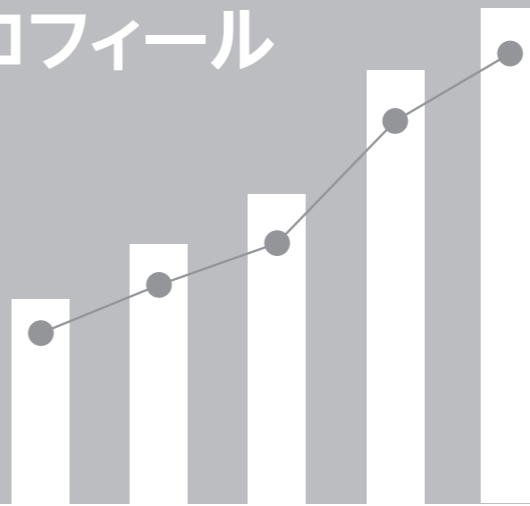
〒104-8165  
 東京都中央区銀座六丁目15番1号  
 TEL: 03-3546-2211 (代表)  
<http://www.jpower.co.jp>



環境に配慮したFSC®認証紙と植物油インキを使用しています。

P1

## J-POWERの プロフィール



P3



トップ  
メッセージ

P6

キーパーソンと  
一緒にJ-POWER  
をのぞこう



## 竹原火力発電所 リプレイス

# J-POWER REPORT

第62期 株主通信

2013年4月1日 > 2014年3月31日

証券コード9513

P7

J-POWERの  
未来をつくるエネルギー



## 日本トップクラスの 水力発電

P9

株主様向け施設見学会  
誌上体験レポート Vol.6



## 高砂火力発電所



商号  
電源開発株式会社  
コミュニケーションネーム  
J-POWER  
設立  
1952年9月16日  
従業員数  
2,352名(個別)  
7,262名(連結)  
資本金  
152,449百万円

企業理念

使命  
わたしたちは人々の求めるエネルギーを不断に提供し、日本と世界の持続可能な発展に貢献する

信条

誠実と誇りを、すべての企業活動の原点とする  
環境との調和をはかり、地域の信頼に生きる  
利益を成長の源泉とし、その成果を社会と共に分かち合う  
自らをつねに磨き、知恵と技術のさきがけとなる  
豊かな個性と情熱をひとつにし、明日に挑戦する

当社IRサイトのご案内

当社IRサイトでは、最新のニュースや開示情報などを定期的に更新しており、特に「個人投資家の皆様へ」のページには、業績の推移や今後の計画、発電所でのイベント情報など、さまざまな情報を掲載しております。ぜひご覧ください。



[http://www.jpowers.co.jp/annual\\_rep/ann03000.html](http://www.jpowers.co.jp/annual_rep/ann03000.html)

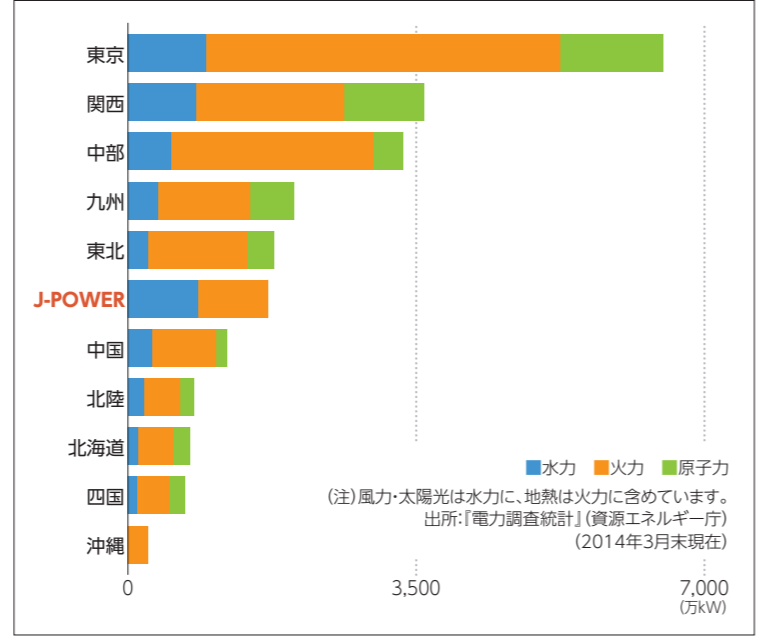
J-POWER  検索

# J-POWERのプロフィール

## 日本最大の卸電気事業者

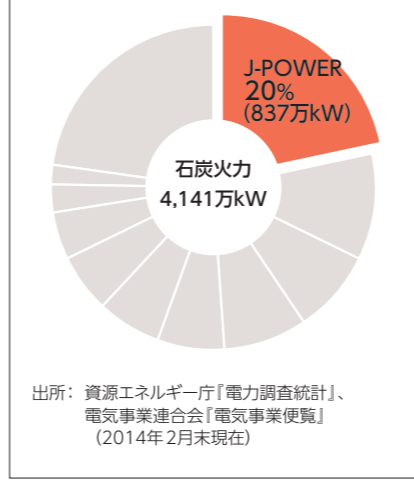
保有する設備の発電設備出力合計は約1,700万kW (J-POWER単体)にのぼり、全国の電力会社の中でも第6位の規模です。

●当社と電力会社の設備出力

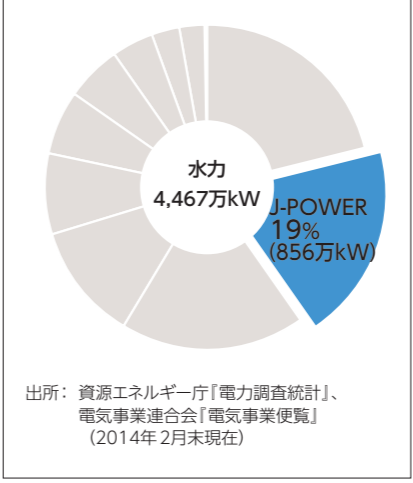


## 石炭火力で国内第1位の出力、水力・風力でもトップクラスの規模

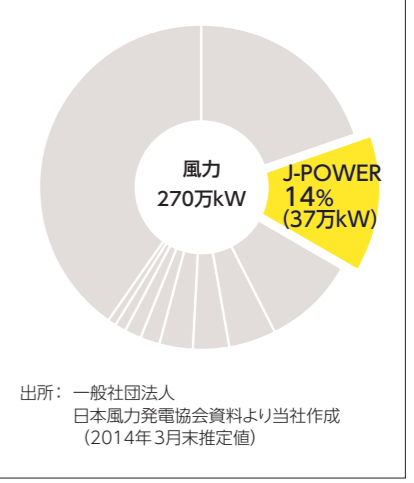
●石炭火力発電設備出力シェア



●水力発電設備出力シェア

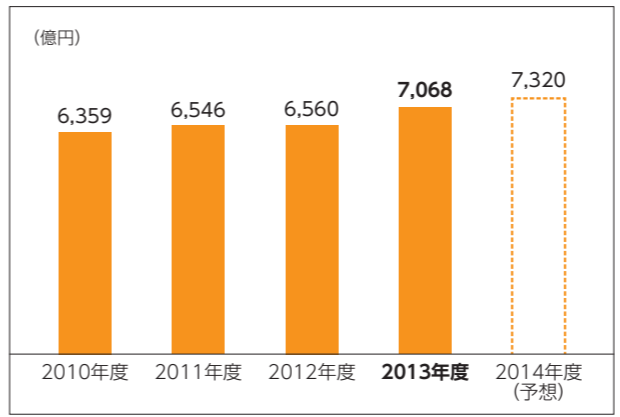


●風力発電設備出力シェア



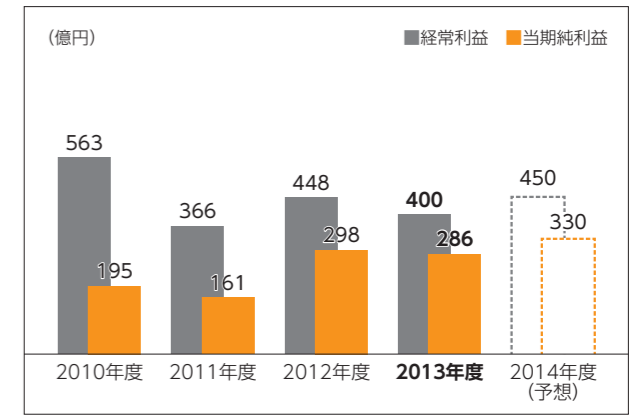
## 連結売上高・連結利益

●連結売上高(営業収益)



**当期のポイント** 卸電気事業では水力は出水率の低下など、火力は基本料金の減などにより減収となりましたが、海外事業におけるタイ国プロジェクトの営業運転開始などにより増収となりました。

●連結経常利益/連結当期純利益

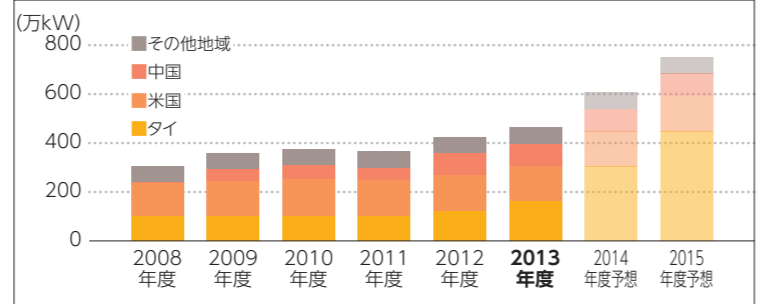


**当期のポイント** 売上高(営業収益)は増加となりましたが、営業費用はタイ国プロジェクトの営業運転開始に伴う燃料費の増加などにより増加、営業外費用は為替差損などにより増加となり、経常利益、当期純利益とも減少しました。

## 海外コンサルティング事業 64カ国・地域344件 海外発電事業7カ国・地域35件

国内事業で培った技術と信頼のもとに、海外コンサルティング事業を過去50年以上にわたり展開。またその経験や信用、ネットワークを生かして電力需要の高いアジアを中心に海外発電事業に取り組んでいます。

●海外発電事業 持分出力



**当期のポイント** 持分出力はタイ国SPPプロジェクトの営業運転開始により増加しました。

用語解説

**SPP (Small Power Producers) プロジェクト** タイ政府が、(1)小規模事業者への奨励を通じ、在来電源の副産物や再生エネルギーを活用してエネルギー利用効率を上げること、(2)石油輸入・使用の削減を図ることを目的として1992年に創設したプログラム。

## トップメッセージ

# J-POWERグループ経営の方向性と当面の取り組み方針



取締役社長

# 北村 雅良

株主の皆様には平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。第62期株主通信をお届けするにあたり、経営を代表してご挨拶申し上げます。

わが国のエネルギーをめぐる環境は、東日本大震災および福島原子力発電所事故を契機として大きく変化し、本年4月11日には、エネルギー戦略を白紙から見直したエネルギー基本計画(第四次)が閣議決定されました。

電力需給をめぐる見通しは不透明な状況が続き、また依然として定量的なエネルギーミックスは示されておりませんが、基本計画において、電力システム改革をはじめとした制度改革の進展とともに、原子力・石炭火力を重要な**ベースロード電源**と位置付けて電力供給の再構築を図っていくとの方向が示されたことは、当社の経営の方向性と合致するものであると考えております。

このような状況のもと、当社グループは、競争環境の進展に対応し、電力の安定供給に貢献し続けるために、技術力の強化と設備信頼性の確保を中核とした「事業基盤強化」を着実に推進してまいります。そしてさらなる成長を確実なものとするため、環境負荷に配慮した国内ベースロード電源を主軸とする供給力の確保に向けた「新規開発による成長」への取り組みを進めることで、企業価値の向上に努めてまいります。

## (1) 事業基盤強化への取り組み

### ① 設備信頼性の確保

当社グループの火力・水力・送変電設備につきましては、高稼働に対応した設備保全の強化と経年化対策を進めるとともに、災害対策や環境対策を適切に実施することで、安定稼働に努めてまいります。



本四連系線(瀬戸内海を横断し本州と四国をつなぐ電圧50万Vの送電線)

なお、本年3月に、松浦火力発電所2号機において低圧タービンロータ落下事故が発生いたしました。厳しい電力需給状況下における本件事故の重大性を真摯に受け止め、早期復旧に向けて全力で取り組むとともに、原因の早期究明と再発防止策の徹底に努めてまいります。

### ② 社会的責任に応える事業運営

今後も経営環境の変化に応じて継続的にコーポレート・ガバナンスの充実を図っていくとともに、より一層の社会的信頼を獲得・維持するため、コンプライアンスの意識を浸透・定着させるよう取り組んでまいります。

また、安全の確保・危機管理の徹底、災害への対応力強化により、電力安定供給を支えるとともに、地域・社会との共生や環境経営の推進を通じて、社会の持続可能な発展に貢献してまいります。



佐久間ダム 巡視点検

### ③ 事業環境の変化への対応と事業基盤の強化

新規電源の開発、既存設備の信頼性の維持・向上、コスト低減などの取り組みによって、グループ内での相乗的な競争力強化を図り、事業環境の変化に対応できるよう事業基盤の強化に取り組んでまいります。

さらに、従業員の能力向上に向けた人財育成を進めるとともに、活力ある組織づくりに取り組み、企業基盤を強化してまいります。

## (2) 新規開発による成長への取り組み

### ① 国内石炭火力のリプレース・新增設と技術開発

電力の安定供給という社会的要請に応えるべく、経年化火力のリプレースによる高効率化と、石炭火力を活用したベースロード電源の開発に努めてまいります。そのために、竹原火力発電所新1号機リプレース計画・鹿島パワー計画<sup>(注1)</sup>を着実に推進し、世界最高水準の高効率石炭火力発電を展開してまいります。また、これらに続く新たな事業機会を追求してまいります。

#### 用語解説

**ベースロード電源** 昼夜を問わず一定量の電力を安定的に供給する電源のことであり、日本では燃料供給および価格安定性に優れた石炭火力発電や原子力発電などがその役割を果たしている。

## 2013年度 下半期トピックス

2013

**10月** ベトナム国南部揚水発電計画の事業化検討調査に関するコンサルタント業務の開始

当社はベトナム国で今後重要となるピーク需要への対応と電力系統の平準化を図るため、経済産業省資源エネルギー庁より具体的な揚水発電計画の事業可能性調査を実施するコンサルタント業務を受託し、調査団を派遣しました。

**12月** 鹿島パワー(株)設立

当社は、新日鐵住金(株)鹿島製鐵所構内において発電事業を実施するため、同社と共同出資により鹿島パワー(株)(茨城県鹿嶋市)を設立しました。64万kW級の石炭火力発電設備で、当社と同社へ電力を供給します。2020年の営業運転開始を目指します。

2014

**3月** 上ノ国ウインドファームの運転開始

北海道檜山郡上ノ国町にて建設を進めてきた「上ノ国ウインドファーム」が運転を開始しました。北海道内では5地点目の風力発電所で、当社が国内で手掛ける運転中の風力発電所は19地点となりました。



**4月** 大阪市平野下水処理場汚泥固形燃料化事業の運営開始

当社が出資する株式会社バイオコール大阪平野<sup>\*</sup>は、西日本最大の下水汚泥固形燃料化施設を大阪市に建設し、4月1日より汚泥固形燃料化事業を開始しました。燃料化物は当社の石炭火力発電所などで石炭と混焼利用する計画です。



<sup>\*</sup>月島機械(株)およびバイオコールプラントサービス(株)との共同出資



キーパーソン  
と一緒に

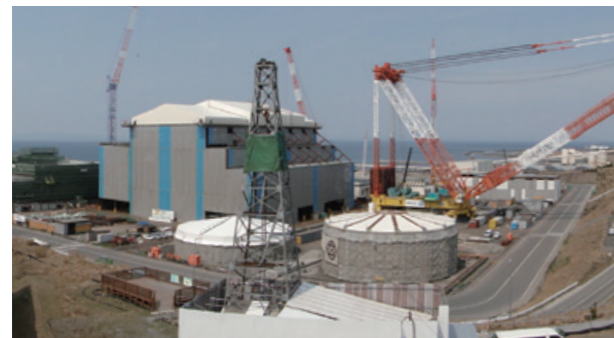
# J-POWERをのぞこう

さらに、**石炭ガス化複合発電(IGCC)技術** や **CO<sub>2</sub>回収・貯留(CCS)技術** などの高効率化・低炭素化を目指す技術開発に取り組んでまいります。このような技術開発の一環として、大崎クールジェン(株)<sup>(注2)</sup>を設立し、2016年度の酸素吹IGCC技術実証試験の開始に向けて、試験設備の建設工事を進めております。

## ②大間原子力建設の着実な推進

**ウラン・プルトニウム混合酸化物(MOX)燃料** を使用する大間原子力発電所の建設を進めております。エネルギー安定供給を支えるベースロード電源の確保と、地球温暖化対策のニーズに応えるとともに、プルトニウム利用による**原子燃料サイクル**の中核を担うプロジェクトとして、安全性の確保を大前提に、引き続き地域の皆様からのご理解を得ながら、プロジェクトの着実な推進を図ってまいります。

現在、原子力規制委員会による新規基準への適合性審査に向けて、原子炉設置変更許可申請などの準備を進めております。可能な限り速やかに申請したうえで審査を受け、早期の運転開始を目指してまいります。



大間原子力発電所建設工事状況

## ③再生可能エネルギーの拡大

低炭素化に向けて、再生可能エネルギーの開発にも取り組んでまいります。

風力発電につきましては、風況良好な地点を継続的に発掘し、新規開発を着実に推進すると同時に、設備稼働

率の向上と保守・運営の効率化による収益力強化を実現してまいります。さらに、洋上風力の実用化に向けた取り組みを進めてまいります。

このほか、地熱発電につきましては、**山葵沢地熱計画**<sup>(注3)</sup>を推進するほか、新規地点の開発に向け、さらなる取り組みを進めてまいります。中小水力発電事業では、くつたり発電所の建設工事を進めております。

また、バイオマス資源の燃料化事業を拡大し、火力発電所におけるバイオマス燃料の混焼を着実に推進すべく、継続的に取り組んでまいります。



くつたり発電所(河川維持流量)

## ④海外発電事業の着実な展開

海外発電事業につきましては、運転中の発電所は7カ国・地域で35件、当社持分出力は約460万kWとなっております(2014年3月末現在)。

現在、タイ国ではノンセン・ウタイIPPプロジェクトを建設中であり、また、インドネシア国ではセントラルジャワ石炭火力IPPプロジェクトを開発準備中であり、

これらの発電所がすべて運転を開始した際には、持分出力が約800万kWとなる見通しであります。これら建設・開発準備中のプロジェクトを確実に遂行し、既存プロジェクトも含めた海外発電事業における収益力の向上に努めるとともに、将来に向けた新規プロジェクトの培養を進めてまいります。

(注1)P.3トピックス参照 (注2)中国電力(株)との共同出資  
(注3)三菱マテリアル(株)および三菱ガス化学(株)との共同出資

## 用語解説

**石炭ガス化複合発電(IGCC)技術** (IGCC: Integrated Coal Gasification Combined Cycle) 石炭から生成させた燃料ガスを燃焼して発電するガスタービンと、ガスタービンの排熱を利用する蒸気タービンからなる複合発電システム。

**ウラン・プルトニウム混合酸化物(MOX)燃料** 原子力発電所で使用したウラン燃料を再処理工場で処理し、ウランとプルトニウムの混合酸化物としたもので、ウランと同様に核燃料として利用する。

**CO<sub>2</sub>回収・貯留(CCS)技術** (CCS: Carbon(Dioxide)Capture and Storage) 工場や発電所などから排出された二酸化炭素を排ガスなどから分離・回収し、輸送後貯留することで、長期間大気中から隔離するシステム。貯留方法として地中貯留と海洋貯留がある。

**原子燃料サイクル** ウラン採掘から核燃料の製造を経て核燃料として利用し、使用済み核燃料を再処理して、再び使用し、残りを廃棄するまでの一連の過程。



竹原火力発電所リプレース計画完成予想図

新1号機建設予定地

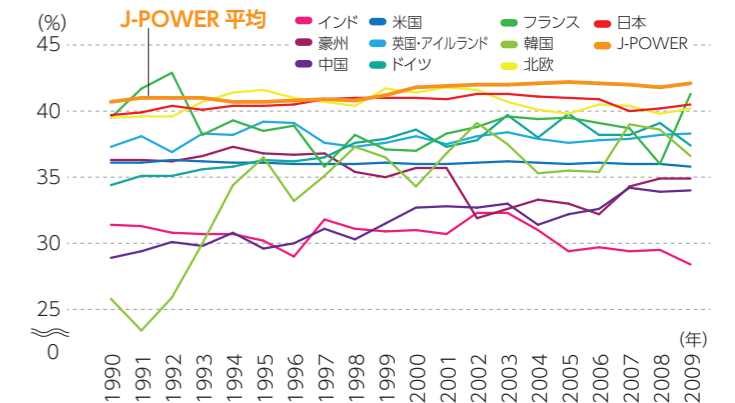
## 竹原火力発電所リプレース 世界最高レベルの最新鋭石炭火力発電所へ

J-POWERグループは、日本初の輸入炭火力の開発や最新技術の導入による高効率発電などを実践し、日本の石炭火力発電をリードしてきました。現在、日本全国で7カ所・837万kWの石炭火力発電所を運営しており、今後も環境に配慮した世界最高水準の高効率石炭火力の展開を拡大していく方針です。

その一環として、現在、竹原火力発電所(広島県竹原市)のリプレース計画を進めています。竹原火力発電所で運転中の1号機~3号機(計130万kW)の発電設備のうち、運転開始から約40年を経過した1号機(25万kW、1967年7月営業運転開始)、2号機(35万kW、1974年6月営業運転開始)を、新1号機(60万kW)にリプレースします。環境アセスメントの手続きが終了し、2014年3月1日より建設工事を開始しました。すでにリプレースを完了している磯子火力発電所同様、最新鋭技術である超々臨界圧(USC)を導入

し、エネルギー利用効率の大幅な向上を図ります。また、最新の環境対策装置を設置し発電電力量あたりの硫黄酸化物(SOx)、窒素酸化物(NOx)排出量を主要先進国の火力発電所と比較して一桁低い、極めて小さい値に抑制するなど、発電効率、環境負荷の両面から「世界最高水準のクリーンな石炭火力発電所」とする計画です。

## ■世界各国の石炭火力発電熱効率の比較



## キーパーソンが語る注目のポイント

### 「安定供給と環境保全の共生」

竹原火力発電所のリプレース工事は、電力の安定供給に貢献するため、現1・2号機の運転を継続しながら新1号機を建設するビルド&スクラップ工法を採用し、発電停止期間を極力短縮する計画としております。地域の皆様、関係各所のご理解・ご協力をいただきながら、所員一体となって既設発電所の安定運転の遂行とリプレース工場の安全確保・環境保全に留意し、専心努力してまいります。



竹原火力新1号機  
建設所長  
森田 健次



# J-POWERの 未来 をつくる エネルギー

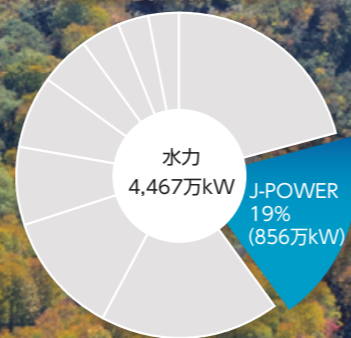
## 水力発電設備出力推移



# 日本トップクラスの 水力発電

再生可能エネルギーの中で最大の設備出力を有し、安定供給の一翼を担う重要な役割を果たす水力発電所。J-POWERは、1956年に運転を開始した佐久間発電所（静岡県浜松市）に代表される大規模水力発電所の開発をはじめとして、半世紀以上にわたり、発電所の建設・運営を行ってきました。現在では全国58カ所に、総出力約856万kWの水力発電設備を持ち、日本の全発電設備の2割近いシェアを占めています。

## 水力発電設備出力シェア



出所：資源エネルギー庁「電力調査統計」、電気事業連合会「電気事業便覧」（2014年2月末現在）

## 半世紀の実績を誇る 再生可能エネルギー

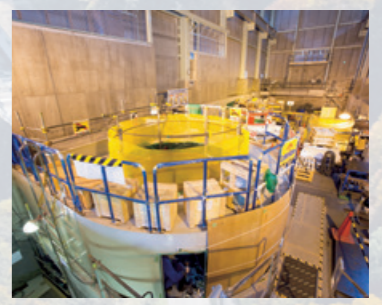
流れ落ちる水の力で水車を回して電気を起こす水力発電は、そのグリーン性から貴重な純国産の再生可能エネルギーの中心的な役割を果たしています。また、電力需要の変動に素早く対応できることから、昼夜間・季節間での需給調整が必要となる日本の電力システムにおいて優れた電源として利用されています。J-POWERの水力発電は、水量に恵まれた水系に建設された大規模な一般水力発電所と揚水発電所を主力とし、発電所当たりの設備出力が大きいことを特徴としています。水力発電の開発というと、戦後や大きな経済発展を遂げた昭和の時代の話と思われる方が多いかもしれませんが、J-POWERでは水力発電の長所を生かした発電所の開発を続け、平成に入ってから6カ所の水力発電所の運転を開始しています。中でも、1996年6月に運転を開始した奥清津第二水力発電所（新潟県南魚沼郡湯沢町）は、既設の奥清津発電所とあわせて出力160万kWとなり、日本最大級の揚水式水力発電所です。

## 安定的かつ効率的な発電

J-POWERは長年にわたり水力発電事業を展開する中で、ダム貯水池へ流下してくる土砂が堆積することにより生じる問題や災害などに適切に対応し、効率的な発電所の保守・管理を継続しながら、水力発電所の長期安定運用に努めています。また、水力発電設備の信頼性と効率性を向上させるため、運転から長期間経過した水力発電所において、主要電気設備の一括更新を実施しています。これにより、発電所の延命化・設備の信頼性の向上を図るだけでなく、最新技術を採用した最適設計を施すことで、発電効率のさらなる向上に努めています。例えば田子倉発電所（福島県南会津郡只見町）では、2004年から2012年にかけて最新の設計技術を採用し、主要電気設備を一括更新する工事を行いました。また、未利用であった既設ダムの維持流量を使用した発電所（奥只見・大鳥発電所（福島県南会津郡檜枝岐村・同只見町）の建設や新規開発を進めるなど、水力資源のさらなる有効活用を求めて努力を続けています。

## ✓ CHECK “新生”胆沢第一発電所（岩手県奥州市）2014年7月の運転開始へ

J-POWER初の発電所として建設され、1954年の運転開始から約60年にわたり稼働してきた旧胆沢第一発電所。これに代わる新たな発電所として、現在、国土交通省が建設している胆沢ダムの直下に新たな「胆沢第一発電所（出力1.42万kW）」の建設を進めています。得意とするダム直下での建設技術力を生かして、トンネル工事を少なくして建設費を抑制。同じ発電所建屋内には、岩手県企業局の胆沢第三発電所（最大出力1,500kW）も併設し、旧胆沢第一（2基の発電機で計1.46万kW）を上回る出力を確保する計画です。環境にやさしいグリーン性に、経済性と高い発電効率を併せ持つ“新生”胆沢第一発電所として、2014年7月の運転開始を目指します。





# 高砂火力発電所 (兵庫県高砂市)

2014年 2月13日・14日

高砂火力発電所は、J-POWERの石炭火力発電所としては、磯子火力発電所(神奈川県横浜市)、竹原火力発電所(広島県竹原市)に続き3番目に完成した火力発電所で、1号機は1968年7月に、2号機は1969年1月に運転を開始しました。

**毎** 回非常にご好評をいただいている株主様向け施設見学会、今回は2日間で計3回実施し、2日目の降雪にもかかわらず多くの株主様のご参加をいただきました。

姫路駅で集合後、移動のバス車内でJ-POWER紹介のDVDをご覧いただき、高砂火力発電所に到着。ホールにて発電所長ほかによる概要説明を行った後、4班に分かれて現場に出発しました。行程は班により異なりますが、一例をご紹介します。

はじめにご覧いただいたのは高砂火力発電所の運転員が勤務する中央制御室を模擬したシミュレーター室。所員による、機器トラブルを想定した訓練の様子をご覧いただいた後、株主様に実際に機器の操作をご体験いただきました。警報が鳴り響く緊張感の中、瞬時かつ適切な対応が求められる運転員の業務をご理解いただけたものと思います。

その後、発電所本館に移動し、ボイラー上部に移動。防護面越しに、実際に石炭が燃烧している状況をご確認いただきました。冬季にもかかわらず、石炭の燃烧熱により室温が40℃にも達していることに驚きの声が上がっていました。

続いて、タービンフロアに降りてタービン・発電機を間近でご覧いただき、中央制御室で運転の様子をご覧いただきました。運転中のタービンの轟音を実際に感じ

## ■高砂発電所プロフィール

	1号機	2号機
最大出力	25万kW	25万kW
運転開始	1968年7月	1969年1月
燃料	石炭	
所在地	兵庫県高砂市梅井	



ボイラー



シミュレーター室



タービンフロア

ていただけたほか、運転員の実際の執務の様子を目にすることができ、ご満足いただけたことと存じます。

**本** 館見学会に続き、バスに乗車して発電所構内を一周しました。残念ながら石炭船からの揚炭の様子はご覧いただけませんでしたが、貯炭場に大量の石炭が貯蔵されている様子や、揚炭棧橋の長さをご覧いただくことができました。途中いったん下車していただき、高さ180mの煙突を見上げていただく機会もあり、火力発電所の規模を実感していただけたことと存じます。

見学会終了後のアンケートにおいては、運転開始から45年を経過した発電所であるにもかかわらず、機器や構内が非常に清潔に整備されていることに感心したとのご意見や、発電所の運転の仕事の重要性が改めて認識できたとのコメントが多数寄せられました。

今後とも、株主様向けの施設見学会を積極的に実施してまいりますので、多くの株主様のご応募を心からお待ちしております。

**DATA**

住所 兵庫県高砂市梅井6-4-1  
電話 079-447-1301

**アクセス**

【公共交通機関利用の場合】  
山陽電鉄山陽曾根駅下車徒歩約30分  
または、山陽電鉄大塩駅下車  
タクシー約15分

【自家用車利用の場合】  
加古川バイパス高砂西ランプから  
車で約15分

高砂火力発電所

## ● VOICE ●

### 電力の安定供給に努めています。

高砂火力発電所は、2基あわせて50万kWと、火力としてはやや小規模ですが、兵庫県全体の1/4にあたる約60万世帯分の電力を供給し続けています。1号機の運転開始から46年目を迎えようとするベテランの発電所ですが、建設当時の発電効率を維持しながら、現在もフル稼働し続けています。



高砂火力発電所 所長  
田代 和幸

高砂火力発電所のマスコットキャラクター  
ばんこちゃんが教えるよ!

**高砂豆知識**

高砂市のちょっとした豆知識を紹介します!

高砂といえば…  
「相生の松」で有名な高砂神社があります。  
謡曲「高砂」の舞台の一つともいわれています。

**ご当地グルメ** 焼きあなご

高砂といえば焼きあなご。  
一度食べたら忘れられません!

高砂市の人気キャラクター  
ぼっくりん(右)

相生の松から生まれた妖精。  
高砂市のマスコットキャラクターです。  
◀ばんこちゃん(左)と2ショット

ばんこちゃんの情報も載っています。高砂火力発電所が運営する地域密着型情報ウェブサイト  
播州コム <http://www.bansyuu.com/>